

第1部

テストが返却された後の放課後の教室。

男子生徒の和也(かずや)は、教師や他のクラスメートがほとんどいなくなる時間を待っていました。そして、葛藤の末にまだ残っていたクラスのリーダー格である結衣の席へ歩み寄ります。結衣は何人かの女子生徒と談笑していました。

「結衣さん、さっきの数学のテスト……隣の席の健二さんの回答を書き写していたよね？ そういうのは、よくないと思うんだ。」

和也は至極真つ当な指摘をしました。彼は全く悪くありません。しかし、このクラスのルールは道徳ではなく「力」によって支配されていました。

「は？ 何？ 急に。」

学校指定の上下濃い青色のジャージを着ている結衣はゆっくりと立ち上がりました。和也は男子の中では少々小柄な体格で、185センチ・70キロという恵まれた体軀を誇る彼女の前に立つと、彼の頭は彼女の胸のあたりにしか届きません。結衣は腕組みをしながら、自分よりずっと小さな男子を見下ろし、不敵な笑みを浮かべました。



「……一丁前に正義の味方のつもり？ お前、わたしに意見しようなんて、100年早いんじゃない？」

「えっ…でも、カンニングは…やっぱりだめだよ……」

和也が勇気を振り絞って言い返した瞬間、

バチンッ！！

凄まじい衝撃に、和也の体は半回転して床に吹き飛ばされました。和也は何が起きたのかまだ理解できません。

和也がカンニングを注意したことへの「返礼」として、結衣の強烈なビンタが彼の顔面を捉えたのです。倍近い体格差がある彼女の大きな手で張られ、和也の体は半回転して床に崩れ落ちます。しかし、これは地獄の序章に過ぎませんでした。

結衣は、驚いて呆然とする和也の髪の毛を掴み、無理やり立たせました。彼女の胸あたりにしか頭が届かない和也を見下ろし、結衣は岩石のように重い拳を固めました。

「何ぼけっとしているのよ？。オラッ！！」

ドスッ！

鈍い音とともに、結衣の体重を乗せた拳が、和也の柔らかな腹部にめり込みました。

「グハッ……！」

和也の口から胃液が逆流し、肺の空気が一気に搾り出されます。